

No. 1258

寒風のはだか祭り

— 愛知・国府宮 —

愛知県稲沢市、この町にある国府宮神社のはだか祭りが2月19日盛大に行われた。不況の時の神頼みか朝早くから参拝客が詰めかけた。社務所前は儼追布（なおいぎれ）やお札を求める人々にぎわった。この祭りのシンボルは重さ6トン余りもある大鐘もち。前日の18日市内をパレードしたあと神社参道に到着。威勢のいい男象に引かれて奉納された。このはだか祭りは正式には儼追神事と呼ばれ、儼追人と呼ばれる神男に触れて一切の厄を落とそうとするもので日本三奇祭のひとつに上げられている。19日は祭りの本番。この日参加したはだか男は8,000人。神社参道を埋めつくし、氣勢を上げながら乱舞。浴びせられる冷水も激しいもみあいの中でたちまち湯けむりになる。熱気と喚声に見物客もしばし寒さを忘れる。この祭りが終ると尾張地方はもう春である。

裏方に生きる

4月1日のプロ野球開幕をめざし、各球団は今、連日厳しい練習を重ねている。静岡県・掛川球場では中日ドラゴンズがキャンプを張っているが、その中で一きわ大声を出す選手、奥田修捕手、背番号71。奥田は昭和47年、阪神から中日へ移り、プロ生活9年を数える中堅選手。だが夢にまで見てプロ入りした奥田はまだ一軍でプレーをしたことがない。投手がピッチング練習をはじめれば捕手をつとめ、バッティング練習をはじめればネットの前に座る他の捕手が実際に試合にそなえて守備や打撃の練習をしても奥田に順番は回ってこない。奥田はブルペン捕手なのだ。来る日も来る日も球を受ける。それが奥田の仕事なのだ。朝は一番に球場入りし、準備をし、帰りは後かたづけをし、いつも最後に帰る。しかし奥田の顔には一つも影がない。野球が好きだから結構楽しいのだと言う。そんな奥田もたまの休日に子供たちと会うと野球を忘れる。プロ野球は勝負の世界、勝つことが使命だ。が、人生において勝つことは、スタープレーヤーになるだけではない。奥田は最高の裏方になりたいと言う。